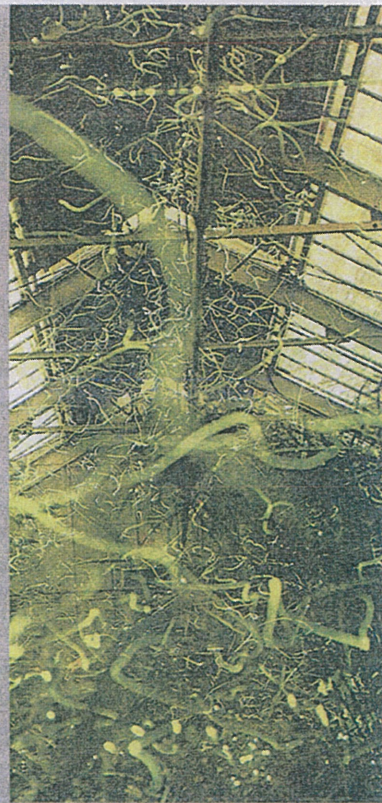


ホタル館 灯消える？

板橋区 廃止へ動く

ホタルを卵から成虫まで飼育する東京都板橋区の「ホタル生態環境館」が廃止の危機にひんしている。運営主体の区が、存廃を決める判断材料として館内の生息数調査を実施したところ、幼虫がわずか2匹しか確認されず、区は廃止に向けて動きだしている。しかし、調査手法に対する疑問の声も出ており、区民や関係者は存続を強く求めている。

(村松権主磨)



昨年6月、東京都板橋区のホタル生態環境館で行われた夜間特別公開で、乱舞するゲンジボタル（阿部宣男さん撮影）

「幼虫生息わずか2匹」

区の委託業者が先月下旬に実施した生息数調査では、温室内にある約二十一枚のせせらぎに入り、二十枚所で幼虫をネットに追い込んだ。体長約二センチと比較的大きなゲンジボタルの幼虫二匹のみが捕獲された。ヘイケボタルの幼虫はゼロで、餌になる巻き貝のカワニナもわずか約九百六十匹。「幼虫は数万匹いる」とするホタル館側との見解と大幅に異なる結果となった。

ホタル館の存廃問題が表

区の委託業者が先月下旬に実施した生息数調査では、温室内にある約二十一枚のせせらぎに入り、二十枚所で幼虫をネットに追い込んだ。体長約二センチと比較的大きなゲンジボタルの幼虫二匹のみが捕獲された。ヘイケボタルの幼虫はゼロで、餌になる巻き貝のカワニナもわずか約九百六十匹。「幼虫は数万匹いる」とするホタル館側との見解と大幅に異なる結果となった。

ホタル館の存廃問題が表



ホタルを飼育する温室で、ホタルの生態などについて話す阿部宣男さん（東京都板橋区のホタル生態環境館で）

飼育員、調査に疑問 ■ 区民は存続陳情

期は一秒に満たない幼虫が多い。人が流れに入ると、石の下などに隠れた幼虫は逃げ、捕獲は難しい」と、調査に疑問を呈す。ホタルの専門家からも「調査方法に問題があるのでは。カワニナは土の中などで繁殖している可能性もある」（ホタル飼育関係者）などとの声が上がります。

しかし、区側は「国が定めた手法に基づいて実施した」としている。ホタル館存続を訴える区民は昨年十一月、区議会に陳情を提出したが、委員会で結論が出ず、今月に入り再提出した。十九日の区民環境委員会で審議される。

区の調査後、阿部さんはホタル館の担当から外されて辞表を提出。施設管理業者も変更され、館内で飼育を手伝ってきたボランティアの活動も止められた。ボランティアの一人は「区の調査や対応は廃止が前提だ」と批判する。

ホタル研究者でホタル館運営にも協力した山岡誠・九州女子大学元教授（ご）は「二十三区内でホタルをあれだけ飼育している施設はない。廃止は大きな損失だ」と話している。